

平成 19（2007）年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

氏名： 前田桂子

日本側所属団体： 財団法人国際開発救援財団

海外研修先名： UNICEF インド事務所

研修期間： 2007 年 11 月 15 日 ～ 2008 年 3 月 30 日

研修テーマ：国際機関と連携をできるプロジェクト企画力及び運営能力の向上

【研修期間全般を通じて行った業務および活動】

- フィールドにおける活動の実践記録業務
- 会議への出席および運営補佐業務
- 外部への情報発信
- スーパーバイザーの補助業務

【具体的な研修内容】

フィールド活動の実践記録業務

下記の 3 州において、フィールド調査を行ない、UNICEF がこれまで各地域で実施してきた活動を Good Practice として書面にまとめる作業を行なった。

- マハラシュトラ州（出張期間：2007 年 12 月 13～22 日）
州教育局の中に教育の質の確保及び向上を徹底する独立した部署を設けている行政の取り組みについて。
- ジャーカンド州（出張期間：2008 年 1 月 10～19 日）
働かなくてはならないために学校に行けない子どもたちが多くいる状況に対して、官民協働で教育の場を提供している実践について。
- ラジャスターン州（出張期間：2008 年 2 月 14～21 日）
女子教育の促進を行なったプロジェクトのケーススタディ。

会議への出席および運営補佐業務

下記の教育に関する国際会議、UNICEF 内部の会議等に参加した。いくつかの会議においては、記録係として会議の運営補佐を行なった。

- International Conference on Universal Quality School Education
（2007 年 11 月 21～23 日、於デリー）
- International Conference on Multilingual Education
（2008 年 2 月 5～8 日、於デリー）
- Workshop on Educational Strategies to Eliminate Child Labour
（2008 年 1 月 28～30 日、於デリー）
- UNICEF Consultation on Child Labour and Education
（2008 年 2 月 6 日、於デリー）

- UNICEF Regional Education Officers' Meeting
(2008 年 3 月 11~14 日、於ボパール)
- UNICEF India Country Office Education Officers' Meeting
(2008 年 3 月 15~16 日、於ボパール)

外部への情報発信

UNICEF India Office のウェブサイトに掲載する原稿を執筆した。

スーパーバイザーの補助業務

スーパーバイザーの指示の下、随時、オフィスの内部資料の作成等の業務を行なった。

その他

2008 年 3 月 3 日に来訪した日本ユニセフ協会スタディツアーのグループに対するデリー事務所でのオリエンテーションに出席し、参加者への応対を行なった。

【本研修の成果】

国際機関における業務の進め方に対する理解促進

UNICEF が活動している 13 州を統括するデリー事務所に配属されたこと、新しい活動年度（1 月始まり）と重なったこと、UNICEF の南アジア地域及びインド国内の会議開催時期に重なったことなどもあり、UNICEF の教育活動の全体的な動きを知る環境に恵まれた。

特に調査研究やインパクトのある活動の実施及びそのアピールなど、実績を形にしていくことが、他への影響力をもって大規模な活動を進めていく上では必要であることを学んだ。また、様々な視覚教材やメディアを効果的に活用している実践例を多く目にすることができた。

これらの経験を通じて、今後、所属団体において強化していくべき点を整理することができた。

『教育の質の向上』に対する取り組みについての理解促進

2015 年までに Education For All の達成を目指すにあたり、各国において教育の質の向上のための活動が活発になっている中、インドでは中央政府が定めた枠組みの中、各州が状況に適した様々な取り組みを行なっている。

研修期間中には、UNICEF において Good Practice とされている活動に関する情報をフィールドにて収集し、下記の通り書面にまとめた。また、この作業のほかに UNICEF の業務に携わったことで、教育の質の向上のための実践例を学んだと共に、いくつかの会議に参加し、EFA 達成のために考慮しなくてはならない分野（児童労働、多言語教育等）や状況改善の可能性（ICT、官民協働等）について理解を深めることが出来た。

- マハラシュトラ州
“Challenge for Quality Improvement: Education Quality Improvement Programme in the State of Maharashtra”
- ジャーカンド州
“Public-Private Partnership: Creating Learning Opportunity for Urban Deprived Children in Jamshedpur city, State of Jharkhand”
- ラジャスターン州
“Girls who were identified and awakened: Stories from Pechan Shala Project and Prabhat Shala Project in Rajasthan”

外部への情報発信

UNICEF の教育支援活動の成果について執筆した原稿が UNICEF インド事務所のウェブサイトに掲載

された。また、フィールド調査の際に地方新聞に記事が掲載されたことによって教育に関わる問題について一般の人の関心を高めることに貢献した。

- http://www.unicef.org/india/education_4042.htm
- http://www.unicef.org/india/education_4043.htm
- http://www.unicef.org/india/education_4062.htm

(作成資料、新聞記事、ウェブサイト記事については、ハードコピーを別途送付する。)

【研修テーマや本研修で求めていることが達成できましたか。達成できなかった場合は、その理由もお書きください。】

- より多くのフィールドワークを希望し、予定も組まれたが、現地側の調整がつかず、最終的には3州でのフィールドワークに留まった。
- UNICEFと連携してプロジェクトを実施しているインドのNGOから工夫している点、直面している問題など具体的な情報を十分に得ることは出来なかった。要因としては、時間的な制約があったこと、直接業務とは関係のない点であったこと、UNICEF側の立場からは実情を聞き出すことが難しかったことなどが考えられる。

【本研修成果を自団体の能力強化にどのように活かそうと考えますか】

活動の拡大及び質の向上、さらに将来的に国際機関等と連携するために強化する必要がある点として、下記の提言を団体に対して行なう機会を設ける。

- プロジェクトの実施だけでなく、要所での調査や評価など客観的な視点を取り入れること。
- 専門性の確保について検討すること。
- より大きな規模の活動が実施できるような組織体制を整備すること。
- より積極的に外部に対して情報発信を行なうこと。また、より効果的な方法についてさらに検討すること。
- より積極的に情報を収集すること。(日本語以外の情報収集の促進)

【今後の課題】※本プログラムや事務局側に対する要望等でも構いません

本プログラムへの提言

- 選考プロセスの短縮化(特に内定後、派遣先決定までの時間が短い)
- プログラム実施のガイドライン作成

事務局への要望

- 運営体制の整備
- 必要な諸手続き(経理処理、報告書等)の事前準備
- 事務局の役割を明確化(特に研修先の検討段階において)
- 研修団体および研修生への情報提供(研修準備および実施期間中)